

PoCを『デモ』で 終わらせないための 判断シート

誰が、どの証拠で、いつ Go / Iterate / Stop を決めるか。開発範囲を増やす前に、終了時の判断条件を一枚にします。

01 仮説 減らす不確実性を一つに絞る	02 証拠 Targetと実測結果を分ける	03 判断 判断者・判断日・条件を置く

使い方：PoC開始前に関係者で1～4を記入し、終了時に同じ証拠を使って5を更新します。空欄は未確定事項として残し、誰がいつ決めるかを置きます。

WORKSHEET 01

今回、減らしたい不確実性を一つに絞る

PoCは機能を増やす活動ではなく、重要な不確実性を意思決定できる証拠へ変える活動です。

☐ 利用者が実際に使うか

☐ 業務時間・品質・売上などの変化があるか

☐ 技術・性能・精度が必要条件を満たすか

☐ 必要なデータを継続して用意できるか

☐ セキュリティ・法務・運用上、本番で使えるか

☐ 本番化・運用コストが便益に見合うか

中心仮説

[対象者] が [仕組み] を使うことで、[現状値] を [目標] へ変えられる。

このページの完了条件

中心仮説を一文で説明でき、今回検証しない不確実性も明示できる。

WORKSHEET 02

Target・Estimate・Measured Resultを分ける

目標と事前推定を、実測結果として説明しないための記録欄です。

指標	Baseline	Target	Estimate	実測結果	データ元・期間
業務時間					
エラー／手戻り					
利用率／完了率					
応答時間／精度					
1件あたりコスト					

記録ルール

Targetは約束ではありません。Estimateは結果ではありません。実測結果には対象者、件数、期間、例外を記録します。

判定に使わない数字・理由

検証する範囲と、検証しない範囲

協力的な利用者と簡単なデータだけで成立しても、本番で同じ結果になるとは限りません。

項目	今回の範囲	対象外	対象外にする理由
部門・利用者			
業務・ユースケース			
データ			
期間			
システム連携			
セキュリティ・運用			

本番で起きる代表的な例外を最低一つ含める

Knockout condition	検証範囲と対象外が書かれていない、または本番で必要な例外をすべて外している場合は、結果を本番導入の根拠にしない。
--------------------	--

WORKSHEET 04

判断者・判断日・Go / Iterate / Stop条件

PoCが終わってから判断者を探すのではなく、開始前に会議と証拠の提出期限を置きます。

役割	氏名・部門	判断・確認する内容
事業責任者		便益・投資判断
現場責任者		利用・業務変更
技術・データ責任者		成立性・データ
セキュリティ・法務		利用条件・リスク

判断日： ____年__月__日

証拠提出期限： ____年__月__日

判断	満たす条件	次に決めること
Go		本番化予算・責任者・開始条件
Iterate		変える仮説・追加証拠・期限
Stop		残すデータ・学び・成果物

Stopは失敗ではない

成立しない前提を小さな投資で確認できれば、PoCは次の投資判断に役立っています。

WORKSHEET 05

PoCと本番の差を残し、開始可否を決める

PoCで省略する要件には、本番化の責任者と未確定事項を置きます。

本番要件	PoCでの扱い	本番化責任者	未確定事項
認証・権限・監査			
可用性・性能・バックアップ			
データ連携・移行			
問い合わせ・障害対応			
教育・業務変更			
効果測定と改善			

☐ 中心仮説を一文で説明できる

☐ Baselineのデータ元と期間がある

☐ 判断者と判断日が決まっている

☐ Go / Iterate / Stopの条件が書かれている

☐ 本番で追加する要件が見えている

☐ データ、AI、個人情報の利用条件が確認されている

空欄を、次の確認事項に。

AMELAのDX支援内容と、必要な関係者・データを確認する →

<https://amela.co.jp/service/dx-consulting>